

様式2	<b>令和4年度 清瀬市立芝山小学校 学校評価表</b>	
<b>学校教育目標</b>	公教育に携わる教職員としての職責を自覚し、一人一人が元気に輝き、確かな学力と豊かな心をもちた自立する児童の育成を図るとともに、健康で安全な教育環境を整え、保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。	<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b>
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>	【目指す学校像】 子供の安全・安心を保障し、どの子にも居場所がある楽しい学校【安心】 保護者が安心して我が子を預けられ、保護者・地域とコミュニケーションを大切にしている学校【信頼】 子供と共に学び、常にプラス思考で、教職員の専門性が発揮できる学校【充実】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自ら課題を見付け、自ら課題を解決していく力＝自学力</li> <li>●他者とかかわる力＝かかわり力</li> <li>●心身ともに健康に過ごす力＝健康力</li> </ul> ①生活科・総合的な学習の時間等における授業改善(校内研究の推進、SDGsと関連付けた取組) ②清瀬市との連携した取組(図書館使った調べる学習コンクールへの参加、石田波郷俳句大会への参加、赤ちゃんのチカラプロジェクトの実施、認知症サポーター養成講座の実施) ③低・中学年の読み聞かせや図書館活動の充実等の全校読書活動の充実 ④特別支援教室(きらり教室)と担任との連携による特別支援教育の充実 ⑤全校縦割りグループを生かした学年交流の取組 ⑥学校支援本部を中核とした保護者・地域との連携と開かれた学校の推進
【目指す児童・生徒像】よく考え、それをやり抜く子 より明るく、みんなと仲良くできる子 そして強く、心身ともに健康な子	【目指す教師像】職責を自覚し、個に応じた手立てをもち、他者からの助言を謙虚に学び、協働する教師	
<b>前年度までの学校経営上の成果と課題</b>	・言語能力の育成を図るための研究授業を行うとともに、読書の励行、俳句の創作、音読・暗誦による語彙力の向上、国語辞典の積極的活用など、言語活動の充実に取り組んできた結果、児童の言語への関心が高まり、理解力や表現力の向上が見られるようになってきた。 ・今年度は、昨年度の成果をもとに、言語能力の育成も生かし、生活科・総合的な学習の時間、各教科等を通して、自ら課題を見付け、自ら課題を解決していく児童の育成(自学力の向上)につながる授業改善の視点を明らかにしていく。	

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	○学力の定着度を客観的に測定し、適切な評価を実施する。	4	4	・授業中の子供たちが集中して話を聞いている姿から、授業に向き合う姿勢が身に付いており、先生が一人一人をよく把握していると感じる。 ・先生たちによる子供たちへの言葉掛けは、丁寧で寄り添うような言葉であった。 ・少人数指導については、効果を検証しつつ、基礎基本の定着のため、取組を継続していつてほしい。	・生活科、総合的な学習の時間をはじめ、各教科においても自ら課題を見付け、自ら課題を解決していく力の育成を意識して取り組んでいく。 ・ベシクタイムの成果を踏まえて、取組を継続するとともに、学習の基礎基本の確実な定着を図る。
	○宿題や家庭学習の提示の仕方を工夫し、自ら学習に取り組む態度を育成する。	4	3	・タブレットを活用し、画面を見る時間が多くなることで、話したり聞いたりするときに、互いに目が合わなくなっているのではないかと心配する。 ・タブレットを効果的に活用しながら、書くことも大切にしたい。 ・辞書を日常的に使うことは、これからも取り組んでほしい。辞書を使うことで語彙が豊かになる。	・学習端末の効果的な利活用については、今後も実践を重ねながら、学年の発達段階に即して、学習の手段として有効活用していく。 ・自学力向上を目的とした自主学習は、ねらいを明確にして、学年・学級での取組を情報共有しながら、意図的・計画的に進める。
豊かな心の育成	○毎学期にふれあいアンケートやふりかえりアンケートを実施し、その分析結果を活用していじめの早期発見に繋げる。	4	3	・子供たちの様子は、大変落ち着いている。児童の肯定的回答の割合が高いことから、学校としての取組は評価できる。いじめについての取組は、子供の話をよく聞いていくことが大切である。今後も、一人一人の話を聞き取る取組を継続していつてほしい。	・教職員による日々の観察やふれあいアンケートを活用したいじめの未然防止や早期発見の取組については、次年度も継続し、児童が相談したいことを話せる機会がもてるよう検討する。 ・次年度もホームページや学校だよりで積極的に情報発信を行い、学校の取組に対する家庭や地域の理解を深める。
	○毎学期の挨拶運動の実施とふれあい班活動を計画的に実施する。	4	4	・あいさつ運動は、代表委員会の児童を中心に計画通り行うことができた。活動方法を工夫するなど、主体的に活動できたことは、全校児童の意識付けにつながった。ふれあい班活動は、感染症対策を講じながら、計画通りに実施することができた。異学年交流の充実が、互いにかかわる力の向上につながったことは、児童アンケートの93%の肯定的回答からもうかがえた。	・次年度も代表委員会を中心に全校的な取組としてのあいさつ運動を実施する。 ・教職員と児童、児童相互のコミュニケーションを教育活動全体を通して推進するため、日々のあいさつを意識して取り組んでいく。 ・学年縦割り班活動による異学年交流を、異学年交流給食や集会活動等を活用して推進する。
健やかな体の育成	○安全点検、安全指導、避難訓練を工夫・改善し、計画的に実施する。	3	4	・校庭が全面芝生化になって、けがの割合はどうか。休み時間の様子を見たが、多くの子供たちが校庭でよく遊んでいた。地面が芝生であることが安心感につながっていると思う。 ・固定施設遊具や一輪車など、子供たちがよく使っている遊具は、今後も安全に楽しく使えるように管理していく。 ・芝山小の避難訓練の様子が、消防署の方々から高い評価を受けているのは、日頃からの先生方の指導と子供たちの意識の高さである。また、家庭との連携に加え、これまで行ってきた地域の取組の成果でもある。	・毎月の安全指導日には、生活安全・交通安全・災害安全について実際に即した具体的な指導を行うことで、児童が自分事として考えられるようにする。 ・毎月の避難訓練の実施、「東京防災ノートの活用やセーフティ教室及び建物乱用防止教室を通じて、自他の生命の大切さを理解させ、安全指導の徹底を図るとともに、児童自身の危機回避能力を高める指導を充実する。
	○学級活動や体育の学習を通して、児童の健康・安全への意識を高め、体力の向上を図る。	3	4	・学校の取組として、縄跳びや持久走などの取組を行うことやゲストティーチャーを招いての活動は子供たちにとって、運動の日常化への意欲付けとなる。	・業間の運動遊びを計画的に実施するため、環境と用具の整備を行う。 ・体力テストの結果を分析し、体育学習の充実や運動遊びの日常化につなげる。複数の測定結果から、伸びの実感につなげられるようにする。 ・給食の時間を中心に、各教科等でも、食育の目標である「食事の重要性」「心身の健康」「食品選択」「感謝の心」「社会性」「食文化」について学んでいく。
特別支援教育の充実	○きらり担任と学級担任との連携を強化することによって、個に応じたきめ細かい指導の充実を図る。	3	3	・特別支援教育は、学校に通うすべての児童に対する個別の指導を意識しながら行う。子供の苦手なことや困り感は、様々であることから、指導者が一人一人と向き合うことがこれからも大切である。 ・子供のよさを伸ばす環境は多様であることから、学校の丁寧な説明と情報の発信により、家庭の理解につながる。	・児童の状況については、毎週の会議で教職員全員が共通理解を図ることができるようになる。 ・校内委員会を定期的に開催し、学級での状況や特別支援教室「きらり」での状況について、学級担任と「きらり」の担当者が同席して情報交換を行い、連携を深めることで児童にとって安心できる学校環境を整える。
	○OSCだより、SCと5年生児童全員面接、各相談機関の周知、個人面談の実施等、児童・保護者の相談できる環境を整えていく。	3	3	・年間10回を超える特別支援校内委員会は組織的計画的に実施することができ、関係者で共通理解を図った。SCIによる5年生全員面接や年間を通した保護者面談の実施により、相談できる環境づくりに努めた。アセス(学校環境適応尺度)を年2回実施し、学校全体の児童理解及び学級経営・教科経営に生かすことができた。	・年間3回の生活指導協議会において、各学級担任が児童について状況、取り組んできた手だて、変更について説明することで、全教職員が共通理解できるようにする。 ・児童一人一人が安心して悩みごとを相談できるよう、現在の取組を継続するとともに、学校全体で取り組める体制を検討する。
本校の特色	○学習端末の活用、学校図書館等の活用を推進し、児童の情報活用力の向上に取り組む。	2	3	・SDGsについては、どのくらい意識できているだろうか。SDGsのことに関連して課題意識をもつためには、子供たちが肌で実感できる問題から考えと取り組みやすいのではないだろうか。 ・デジタル社会の今だからこそ、図書館の利用や読書活動を推進していただきたい。活字に触れることが大事であり、たった一冊でも自分にとって大切な本にめぐり会えるようになるとうい。 ・芝山小は図書館はもちろんのこと、廊下など目に触れるところに本がある環境がとてもよかった。	・毎週全校で取り組む「全校読書」の設定、中学年以上の辞書の活用等、各教科・領域等を通じた言語表現の取組を大切にしたい指導を行う。 ・読書旬間を年2回実施し、児童がゆっくり読書に親しめる時間を設けるとともに、児童会の取組を中心に「本の紹介」など、学校全体の取組としていく。 ・学校図書館を活用した学習や読書活動を年間通して推進する。
	○学校だより、学年だよりの他、学校ホームページ、学級だより、メール配信等で、学校からの情報を発信していく。	3	4	・保護者や地域の方々に教育活動を理解していただくためには、ホームページの活用が有効である。こまめに情報発信していくことを今後も続けていきたい。	・保護者・地域と連携していくために、学校・学年の取組の様子について、可能な限り、広く公開していく。 ・次年度も、ホームページ「校長室より」の週1回程度の更新や感染症対策を講じながら、直接参観できる機会を設けて、教育活動及び児童の様子を伝える。